

文芸

短歌

米納三雄 選

限りある命ひとときわ輝かせ夏の終りを飛び交うあきつ

飛び爆ぜる花火の粉を全身に祭りの獅子の勇猛な舞ひ

輝ける露をこぼして静もれる朝の田の面に風立ち初むる

日中は陽差しまだまだ強けれど秋は来たとつくつくし鳴く

うかららと夏に巡りし横浜の写真ながめて又楽しみぬ

歩道行く足弱の吾を追い越して罵声浴びせる自転車の人

夜明け前ホトトギス鳴く声響くまだ暗きにと吾は気遣う

伸び立ちし細き花枝の水引草小粒の紅の愛しくも映ゆ

まつ青な空をバツクに咲くカンナ夏ににあいのあでやかさ

十葉を煎じる夫の日常は水分取りて体をいとう

ふるさとの彼の山彼の川いかならむ桜島には火山灰降る

よいまち草月のしずくで咲く花か月を仰ぎて咲きはこるなり

寺迫 新村 典子
 帯山 萩峯ヤス子
 広崎 二木 澄子

俳句

富永小谷 選

稗を抜く泥のつめたさ心地よき

秋蝶の己が影追ふ風の中

夜の秋ことばすくなの夫とゐて

萩の花ゆらし物売り呼び止むる

稲妻や止まり木の鳥くぐみ鳴き

式部の実老木息をふき返し

揚花火術後の傷に手をふれて

はたした神小言めきしが遠ざかる

宵月とともに聴き入る庭の虫

あつかましき 遠慮会釈もわきまえん

あつかましき 買わんな味見ばかりさす

あつかましき よその電話で長話し

あつかましき 人押し退けち取って行く

あつかましき かつたる飯は食て行く

前触れ 首かしげらず聴診器

前触れ 先生方の里帰り

前触れ 叔父貴の時とそっくりぞ

狂句

田上富岳 選

上陳 松本 昭子

宮園 丸野 紀子

秋永 福岡ふさえ

宮園 久保ます子

惣領 山本みな子

馬水 松本みどり

小谷 富永 きぬ

赤井 西たかもり

田原 佐藤 澄世

馬水 西村ハツエ

下陳 山田 凡骨

広崎 宮崎 逸雄

惣領 小森英美子

宮園 岩本よこく

寺迫 新村 典子

宮園 西田 流水

前触れ 先生方の里帰り

狂句次号の課題 「そろ面白か」「目が離せん」

投稿は役場広報係まで。毎月15日まで必着。
 (数種に投稿される場合は、別にしてください。)

アイロンのスイッチの切り忘れはありませんか？



スイッチの切り忘れ

アイロンや電熱器などを使用しているときに、来客や電話でついその場を離れてしまうようなことはありませんか。その場を離れるときは、必ずスイッチを切り、プラグを抜く習慣をつけましょう。



財団法人 九州電気保安協会